

KOFU21

Chartered 1990  
甲府21ワイズメンズクラブ



〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目10-7  
山梨YMCAグローバルコミュニティセンター  
☎055-235-8543 fax055-235-8553  
Mail kofu21@googlegroups.com

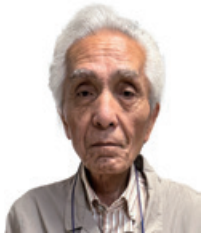
国際会長	ウルリック・ラウリドセン(デンマーク)	「輝かそう、あなたの光を」	甲府21ワイズメンズクラブ 2024年2月会報 ----- 今月の強調テーマ ----- TOF、HTW
アジア太平洋地域会長	利根川恵子 (川越)	「変革のための光となろう」	
東日本区理事	山田公平 (宇都宮)	「未来のために今、学びと気づきを！ 未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」	
あずさ部部长	森本俊子(長野)	「よい結果をもたらす心の安定と考える力」	
甲府21クラブ会長	小澤公紀	「みんな一緒に、1つの目標(YMCAの支援)に向かって行動しよう」	

【今月の聖句】 「エフェソの信徒への手紙2章10節

選者：鈴木 美穂子

「わたしたちは、神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。」

## 2月巻頭言



会長 小澤公紀

新年早々の大地震発生により、多数の尊い命と大きな被害を受けた能登地方の皆様は哀悼の意とお見舞いを申し上げます。

今も遅々として進まぬ復旧に普通の生活が出来ない被災者が4割近く居るといふ報道に接し、私たちも何らかの形で少しでも災害支援の手をと思わずにおれません。近々ワイズメンズクラブ全体の方針も出される様なので当クラブでも出来る範囲で協力したいと思っております。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

さて、2月に入り2023～2024年度も後期となり早1ヶ月を経過しました。後期も通常例会はもとより、部の評議会、ベビーカーコンサートの開催、チャリティーラン等大きな事業が続きます。

そんな中、今2月の例会においてインドネシア、及びミャンマーからの研修生(PHD協会による研修生)を招き、夫々の国での生活や日本の印象など紹介していただきます。同じアジアに生活の拠点を持つ人々が、夫々の国の事情の中で、どのような思いで暮らしているのかを知ることで、私達日本人の立ち位置を考える機会になればと思っております。

尚、今回の研修生は当クラブの清藤ワイズ宅にホームステイされています。この機会に今回もユースのメンバーを招き、一緒に考える場を持ちたいと思っております。

日本ばかりでなく全世界で異変、異常が多発しております。このまま私たちはどこへ向かっていこうとしているのか、その中で自分はどうのような世界を望んでいるのか、その為に自分は何ができるのか等、真剣に考える時間を持ちたいと考えます。

3月にはフードバンク山梨の米山理事長を招き、お話を戴く予定です。この先の日本を担う子供たちの、健全な成長を願う確かな活動に至った思いや苦勞など、ユースの若者と一緒に勉強したいと思っております。

## 2月第一例会プログラム

2024年2月6日(火) 19:00～

会場：山梨YMCA3階大澤英二記念ホール

日時 2024年2月6日(火) 19:00～

会場 山梨YMCA3階大澤英二記念ホール

司会 依田友紀ワイズ

1. 開会点鐘 小澤公紀会長
2. ワイズソング、ワイズの信条
3. 聖句・一言 鈴木美穂子ワイズ
4. 会長挨拶、ゲスト紹介 小澤公紀会長
5. 会員10分卓話 浅川貴明ワイズ
6. ハッピーバースデー
7. ワイズディナー
8. ゲスト卓話 PHD研修生のお話  
アギーさん(インドネシア)  
チェリーさん(ミャンマー)
9. 諸報告
10. YMCAの歌
11. 閉会点鐘 小澤公紀会長

## 《2月の誕生者》 Happy Birthday!

〈メン〉

山縣譲治(6日)

〈メネット〉

荻野優子(4日)

鎌田千里(9日)

饗場雅子(10日)

〔敬称略〕

## 2024年4クラブ合同新年例会報告

書記 寺田喜長

日時 2024年1月9日(火) 18:30～

会場 シャトレーゼホテル談露館

甲府21クラブがホストの県内の4クラブでの合同新年例会は昨年に続きシャトレーゼホテル談露館にて開催されました。開会に先立ち年明け早々に能登半島で大きな地震が起き、犠牲になられた多くの方々のご冥福を祈り黙とうを捧げました。

甲府21クラブ小澤公紀会長の開会点鐘にて開会、今月の聖句を選ばれた駒田勝彦ワイズの一言を頂き、小澤公紀会長の挨拶とゲストの日本YMCA同盟田口努総主事、山梨YMCAユースの風間奈月さん、渡辺結菜さん、菊池央人さん、松本クラブの大和田浩二東日本区書記の皆さんの紹介が有りました。

ゲスト卓話は地震直後から地震被害地石川県に向かわれ、被害状況を見てこられた田口努総主事のお話を頂きました。生々しい被災状況が映し出され、その悲惨さに驚かされました。その中での現地のYMCAの活動状況報告を伺いワイズとして少しでもどんな形でも応援していかなければとの思いを新たにしました。

小澤会長の今季のテーマの一つ、ユースとの交流の場としてユースの例会への出席をお誘いしており、今回はユースタイムを設け、出席された3人の方に活動報告を

して頂きました。アジア太平洋地域ユースコンボケーション参加報告、ユースリーダー会の活動報告、そして今後の取り組み等の発表を通してユースの心強い力に期待を持つことが出来ました。記念撮影後、懇親会を開催、過去一年間に入会された方を紹介、富士五湖クラブ次期会長原淑子ワイズの乾杯の音頭にてワイズディナーへ、お招きしたしらいみちよ様のライブを堪能、いくつかの災害被災地へ支援をされているし

らい様の歌声が被害にあわれた能登半島地域の方たちに届きますよう祈ります。タイムリーなチャリティーライブとなりました。本日のニコニコ募金はYMCAを通して能登半島地震への支援金として中田純子山梨YMCA総主事に託しました。金丸さぶろう甲府クラブ会長の閉会点鐘にて閉会しました。

## 「第13回お正月を遊ぼう」に参加して

書記 寺田喜長

「第13回お正月を遊ぼう」に参加して

日時 2024年1月8日(月・祝) 10:00~15:00

会場 甲府駅北口よっちゃばれ広場、藤村記念館

甲府北口まちづくり委員会主催の「お正月を遊ぼう」に今回から21クラブが共催に加わり甲府市内の3ワイズメンズクラブと北口ロータリークラブ等の団体が協力し開催されました。冷え込んだ寒空の中8時より手分けして会場作り、準備された懐かしいお正月遊びの道具が並べられ、21クラブはコマ回しと羽根つきを担当、子供達への指導を担う役目に叶うべきコマ回しに挑戦、何とかコツを掴むころには続々と親子連れが来場、開会前から賑わい冬の寒さを忘れさせる熱気に包まれ、10時の開会式の頃には親子ずれが会場に溢れ、懐かしい遊びのけん玉、竹馬、福笑い、カルタ等を楽しみました。コマを回せるまで何回も挑戦する子、2、3回試してすぐあきらめる子、親が熱中してしまう家族等子育て中の若い家族がたくさん集まり、賑やかなお正月を過ごされていました。

協力頂いた駒田、小澤公紀、興水、平賀、山縣、水越各ワイズご苦労様でした。



## 本日のゲスト



アギー・ラミダ・プットリさん



チェリーさん

公益財団法人 PHD 協会

目的 アジア、南太平洋地域からの研修生を招聘、研修後のフォローアップを通して、草の根の人々による自立した村づくりと生活向上に協力すること。

日本の人々もアジア、南太平洋地域の人々と交流を通して学び、そこから毎日の生活を問い直し、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人材を育成 (Humann Deveipment) し、「共に生きる」社会をめざすこと。



アギー・ラミダ・プットリ

インドネシア / 宗教: イスラム教

研修テーマ: 保健衛生, 助産

西スマトラ州ソロ郡タベ村から 8 人目の研修生。州都パダンから 3 時間程内陸部に入った山村で、人口約 1850 人、約 496 世帯。熱帯ですが、標高約 1,100m に位置し朝晩は肌寒いほどです。アギーさんは大学で助産を学び、2021 年 11 月から約 1 年半助産師として働きました。タベ村では「妊婦の高血圧などの健康管理」に課題があると感じています。その課題を克服すべく日本では助産や保健衛生、栄養管理などを学びます。タベ村初の助産師として地域の期待も高いです。夢は「アギークリニック」を作り、地域の健康を支える存在になることです。



チェリー

ミャンマー / 宗教: 仏教

研修テーマ: 保健衛生, 児童養護, 手工芸, 教育, 識字教育

古都マンダレーの西に流れるエーヤワディ川のほとりにスラム・東パッターはあります。元々は大きな池であった地域にゴミが集まり、仕事が生まれた地域です。今ではそのスラムに約 200 世帯、1,000 名以上が住む地域となっています。チェリーさんは 2014 年からスラムで児童労働に従事している子どもたち (4 ~ 13 歳) にビルマ語や算数などを教えています。また、住環境から怪我をする子どもも多く、その応急手当などもしています。さらに親たちへの識字教育もしているそうです。日本では、ミャンマーのスラムの子どもたちが自立していけるよう、手芸品の作り方や食事についての知識、応急手当の技術を学びます。帰国後は子どもたちのライフスキル (生きるための力) を養う活動を続けていきたいと思っています。

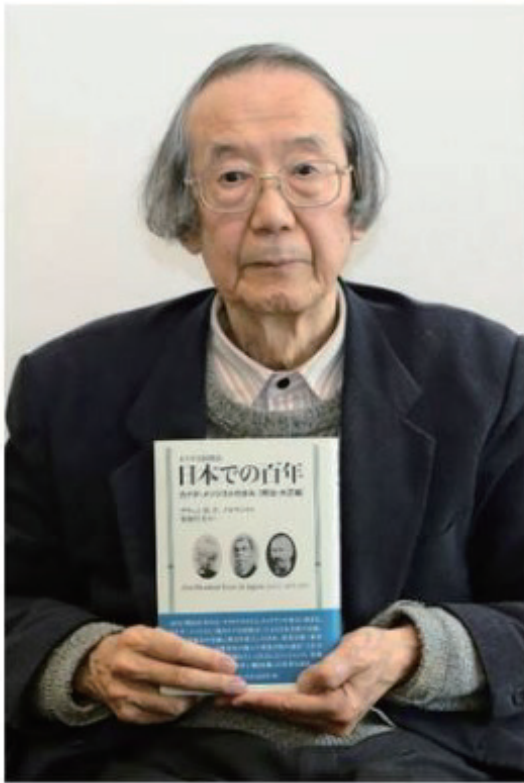
## 今後の予定

- 2月8日 (木) PHD 研修生を迎えて  
国際交流の夕べ 午後6時~午後8時
- 2月10日 (土) あずさ部第2回評議会 (東京八王子クラブ)
- 2月20日 (火) 第2例会 18時半
- 3月5日 (火) 第1例会 19時
- 3月19日 (火) 第2例会 18時半



よろしくネ

後藤ワイズ 「カナダ合同教会 日本の百年」出版  
山梨日日新聞掲載 2024.02.02



カナダのキリスト教宣教師らの明治・大正期の活動記録を翻訳、出版した後藤哲夫さん 二甲府市役所

# カナダ合同教会 活動の歴史紹介

山梨英和中・高の元教諭後藤哲夫さん(80)＝甲府市＝は「カナダ合同教会 日本の百年 カナダ・メソジストの歩み(明治・大正編)」を翻訳し、出版した。カナダ・メソジスト(現カナダ合同教会)の日本宣教の記録をつづっている。後藤さんは「メソジストによるキリスト教伝道の歴史を知ってほしい」と話している。

後藤さんは、1983年に発足した山梨キリスト教史研究会に参加。研究会で山梨英和の初代校長を務めたウィントミュートの手紙などを翻訳したことをきっかけに、研究会での活動を通じて山梨英和短大(当時)の図書館にあった「日本の百年」の原書からコピーを入手した。山梨英和を退職後、2018年から本格的に翻訳

## 元教諭・後藤さんが翻訳、出版

作業を進めてきた。出版した本はA5サイズの489ページ。1873年から1923年までの期間、日本を訪れたカナダ・メソジストの宣教師ら107人の教会設立や教育活動などの記録をまとめている。山梨英和をはじめ、いずれも現在の東洋英和女学院、静岡英和女学院、関西学院、青山学院などの学校設立の経緯についても触れている。

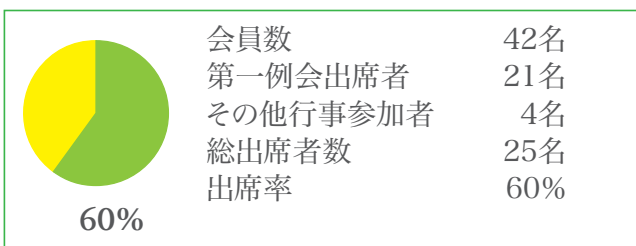
このうち、県関係の記述では1889年の山梨英和設立に続いて、1895年に寄宿舎を備えた男子校の甲府友朋義塾を市内に設立し、教育活動を行っていたことなどが書かれている。

後藤さんは「当時の時代背景や状況に注意して翻訳を進めた。分かりやすい形で当時の様子を伝えられた」と話している。

〈三枝大悟〉



### 《1月例会の出席者》



### 【会計報告】

2024年 1月末現在

項目	ニコニコ	バザー	クリスマス	トータル
目標値	250,000	100,000	50,000	400,000
1月の合計	48,000	0	0	48,000
1月末迄累計	308,529	308,529	52,000	590,719
達成率	308.5%	308.5%	104.0%	147.7%

※1月のニコニコは4つクラブ合同の金額です。金額、能登半島地震の支援金として山梨YMCAへ寄付いたしました。

# 「日本での百年」を辿って

カナダ・メソジストの歩み [明治・大正編]  
グウェン・R. P. ノルマン 著  
後藤 哲夫 訳  
One Hundred Years In Japan, Part 1: 1873-1923

後藤 哲夫

## 第 1 回 同行二人 (どうぎょうににん)

今回から、カナダ合同教会 日本での百年を辿り、150 年を経て今日の私たちにも繋がっている問題を見ていきます。まずは、カナダ・ウェスレアン教会からマクドナルドとカックランが日本へと宣教に出るところからです。

### 召命

1873 年 2 月 18 日

親愛なるマクドナルド兄弟

カナダ・ウェスレアン教会は日本伝道を進めるべく準備をしています。この責任を負っている当委員会は、あなたに以下のことを愛を込めてお知らせいたします。私たちは二人の兄弟を選んで、この新しく、聖なる計画を委ねようと満場一致で決定しました。あなたをその一人として選びました。是非受け入れていただきたいと思います。あなたは、委員会の厚い信頼と賛同を得るでしょう。多くの熱心な祈りが注がれ、あなたとあなたの夫人の、長期間の喜びに満ちた働きが支えられることでしょう。キリストと、彼が代わって死なれた人々のために、夫人が伝道の困難と犠牲をあなたと共に担って下さるならば、私たちの望外の喜びです。

主にありて忠実な総書記

イーノック・ウッド  
ラクラン・テイラー

医学博士、D・マクドナルド牧師は、当時トロント市郊外にあるダベンポートとセクトン地区の牧師であった。32 歳の頃、重要な責任を解かれ、ヴィクトリア医学校に入学するためトロント市ジェラルド・ラックヴィル通り近くに移り住み、牧師としてはより仕事量の少ない任務に就いた。1873 年春には、医学部で学位を取得した。彼の最初の志が何であったかはともかく、マクドナルドは、カナダ・ウェスレアン・メソジスト教会の宣教協会総書記イーノック・ウッド博士から、招聘のあった伝道についてすでに多くのことを聞いていた。ウッドがダベンポートとセクトン地区の教会員であったからだ。

日本伝道の召命を受けたもう一人は、トロント市最大のメソジスト教会のジョージ・カックラン牧師であった。彼もまた何年間か、宣

教協会中央委員会の委員の一人であった。カックランに宛てた手紙には、「この教会の重要な計画の責任を担うこととなる」と書かれていた。日本に宣教の拠点築くという重大な仕事のために、教会は最善を尽くそうとしていた。

1873 年 (キリシタン禁制の高札が撤去された年)「召命」を受けた二人の宣教師は、まだカナダ横断鉄道がない時代に、どのようにしてトロントから西海岸サンフランシスコに到達したのか苦勞の旅だったに違いない。

日本に到着した宣教師たちは、まず「外国人寄留地」(横浜、築地)で生活することになっていた。そこから外に出るためには、「お雇い外国人」として赴任するか、日本人名義で学校を設立し、許可されればそこに住むことが許されていた。マクドナルドは静岡に教師として、カックランは東京の中村正直の私塾へと、二人は分かれたのでした。

第 2 弾として来日したイビーとミーチャムもそれぞれの道を歩んだ。イビーは山梨県南部から舟と駕籠と徒歩で甲府に旅を続けた。当時は現代と違って交通は不便で、旅は難儀でした。しかもついこの間まで「耶蘇には物は売らねー」という僻地に、何故赴いたのか。

マタイによる福音書第 28 章 19, 20 節にはイエスキリストの遺言とされている言葉がある。「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテストを受け、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいます。」

あなたのその旅にいつも私は、あなたと共に、「同行二人」と約束され励まされたのだと思っています。失望や挫折、孤独や不安、そして病の中でも、雄々しく旅を続けられたのだと思っています。

聖書の言葉をそのまま信じ、実行した宣教師たちの姿を皆さんはどう受けとめますか。

\*同行二人は、四国お遍路さんの編み笠に書かれている言葉

## ペンリレー

### カトリックと聖人について

キリスト教と言ってもカトリックとプロテスタントで宗派によって教義が違います。

カトリックの事を知らない人もいますので、今回は聖人について書きたいと思います。

カトリックでは古くから、殉教者や、生涯を通して信仰のあかしをした人たち（聖人や福者）

を模範として敬ってきました。（聖人の認定については別の機会にさせていただきます）また、洗礼を授けられると聖人に倣った生き方ができるように聖人の名前を付けることが一般的です。英語では、クリスチャンネームともいわれます。

また、洗礼名は聖人だけでなく天使や旧約聖書の人物名をつける人もいます。例としてミカエル、ラファエル、モーセ、サムエルなど（ミカエルは仏語ではミッシェル、英語でマイケル、スペイン語ではミゲル）

私の洗礼名は、「アシジのフランシスコ」ですが人に話すと、知っているよ「フランシスコ・ザビエルでしょ」と言われます。カトリックでは超有名な聖人ですが、日本では歴史の教科書に載っているザビエルのほうが有名ようです。

今回、聖人のことを調べてみると、カトリックの聖人カレンダーでは毎日〇〇聖人の日となっており、365日すべてが聖人の日となっていました。詳しい数字はわかりませんが500人以上はいるようです。

おもな聖人をあげますと、古くは聖母マリア、聖ヨセフ、12使徒、聖ステファノ、聖パウロ、聖マルタなど聖書に登場している聖人（カトリックでは聖人に聖パウロというように名前の前に聖をつけます）中世から近代までは、私の洗礼名でもある聖フランシスコ、イエズス会を創設した聖イグナチオ、日本にも関係がある聖フランシスコ・ザビエル、日本人で禁教時代に殉教した日本26聖人、女性騎士ジャンヌ・ダルクなど、最近では私の勤務している法人名にもなっている聖テレジア、アウシュヴィッツ収容所で処刑される人の身代わりとなって処刑された聖マクシミリアノ・コルベ神父、ノーベル平和賞を受賞したマザーテレサ、前々教皇の聖ヨハネ・パウロ2世などです。

カトリックでは聖人に神の取次ぎを願い祈ります。能登半島地震で被災された人のために聖人と共に祈ります。

赤池 譲司

## ◆YMCA便り◆

### 「山梨 YMCA の使命」

総主事 中田 純子

皆さんご存じの通り、山梨 YMCA は人の一生涯である 0 才からの保育園事業から、老いに寄り添う高齢者デイサービス事業までの途切れ目のない支援をしております。また、年齢、性別、国籍、生きやすさ生きづらさを問わず集う場となることを目指し、ひとりひとりが与えられた命を大切にし、輝くことを最優先し、ひとりの人に寄り添いながら伴走サポートしています。

この山梨 YMCA には、1998 年 5 月 30 日 1998 年度山梨 YMCA 総会で採択された、山梨 YMCA の使命があります。「山梨 YMCA は、聖書に証しされたイエス・キリストをわが神わが救い主と仰ぎ、その御旨に従い、全ての人々の精神、知性、身体の全人的な成長を目指して、地域に根ざした以下の働きを行ないます。」以下とは、1・自己の価値を見出し、共に生きる社会を創り出すために、青少年から高齢者までの、生涯にわたる学びのプログラムを展開します。2・創られた全てのを大切にし、自然と人間が共存してゆくための働きをすすめます。3・全世界の人々と連帯し平和を表現してゆくために、特にアジア地域における日本の歴史的な責任を自覚し、近隣諸国とのよりよい友好関係を育てます。4・全ての人々と共に、真の自由と平等を実現するため、差別や偏見を取りのぞくことに努めます。と続きます。

毎年、年度末になると、この使命を読み返し私たちのあるべき姿を見つめ直します。採択された当時から変化のないこの使命ですが、社会と共に歩む運動体である YMCA は社会・地域の変化と共に歩む方法を考えます。大事なことが詰まったこの使命と共に歩むことを繰り返している YMCA はだからこそ、事業計画がみつきり、78 年の時がつながり、積み重ねによりよくなっていくのだと実感いたします。

ワイズメンズクラブの皆様にもこの使命を知って頂き、これからも共に歩む関係を保ちたいと願っています。

まめください

